

**English-Language Abstract of Japanese Reference 2:
Japanese Unexamined Patent Application Publication No. JP 55-54788 A**

A pipe joint construction comprising a sealing member 3 for hermetically sealing between an inner circumferential surface of a receiving pipe section 1 and an outer circumferential surface of an inserted pipe section 2 inserted into and connected to the receiving pipe section 1 in a pipe axis direction, and a sleeve 5 provided in the inner circumferential surface of the receiving pipe section 1 for preventing separating movement of the pipe sections by contacting, in the pipe axis direction, a projection 9 protruding from the outer circumferential surface of the inserted pipe section 2, wherein the sleeve 5 is attached/detached to/from the receiving pipe section 1 by rotating the sleeve 5 about the pipe axis direction relative to the receiving pipe section 1 and by moving the sleeve 5 in the pipe axis direction.

⑯ 日本国特許庁 (JP) ⑮ 特許出願公開
⑰ 公開特許公報 (A) 昭55—54788

⑯ Int. Cl.³
F 16 L 21/08

識別記号 庁内整理番号
6333—3H

⑯ 公開 昭和55年(1980)4月22日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑯ 離脱防止管継手

⑯ 特 願 昭53—129330
⑯ 出 願 昭53(1978)10月19日
⑯ 発明者 長尾正三

尼崎市大浜町2丁目26番地久保

田鉄工株式会社武庫川製造所内

⑯ 出願人 久保田鉄工株式会社
大阪市浪速区船出町2丁目22番地

⑯ 代理人 弁理士 森本義弘

明細書

1. 発明の名称

離脱防止管継手

2. 特許請求の範囲

1. 受口内面と押口外面との間にシール材を介接し、押口外面に遊戻したスリーブの一端を受口内に押入し、受口の開口端内面に周方向に複数個突設された突部係合部間に逆戻し得かつ該突部係合部と係合可能な突部をスリーブの上記一端外側に設け、スリーブの他端内面に押口外面の尖部と係合可能な突部を設けたことを特徴とする離脱防止管継手。

3. 発明の詳細な説明

本発明は離脱防止管継手に関するものである。従来、受口と押口間の離脱防止を図つた種々の管継手が提案されているが、ロツクリングを挿入してから受口内に嵌合したり管全体を回転せたりする等、煩雑な操作作業を要する問題がある。

本発明は、簡単な操作で嵌合することのできる離脱防止管継手を提供するもので、以下その一実

施例を図面に基づいて説明する。

受口(1)の内面と押口(2)の外面との間にゴム製の環状のシール材(3)が介接されている。シール材(3)は外側に環状突部(8a)を有し、環状突部(8a)で受口(1)の内面の段部(4)に係合している。4は押口(2)の外側に遊戻されたスリーブであり、一端が受口(1)に押入されている。受口(1)の開口端の内面の周方向複数箇所に弧状の突部係合部(6)が突起されており、該突部係合部(6)間に逆戻し得かつ該突部係合部(6)と管軸方向に係合可能な複数の突部(7)がスリーブ(5)の上記一端外側に設けられている。各突部係合部(6)と瞬接する受口(1)の内面に受口(1)の周方向へ順次盛り上がる圧接突部(8)が設けられ、スリーブ(5)の突部(7)の外周面が圧接可能である。スリーブ(5)の他端内面にはスリーブ(5)内で押口(2)の外側に設けられた環状の突部(3)と係合する環状の突部(9)が設けられている。

このよう構成であると、磁手接合にあたつては、受口(1)の内面にシール材(3)を圧接状態に設置した後、押口(2)を受口(1)内に押入する。ついで、

(1)

(2)

スリーブ(6)を押口(2)側の管の他端から押口(2)に外嵌させ、あるいは押口(2)の受口(3)への挿入前に予じめスリーブ(6)を押口(2)に外嵌させておく。そして、このスリーブ(6)の外端の突部(7)を受口(3)の突部保合部(8)間に對応する周方向位置に位置させてスリーブ(6)の一端を受口(3)へ押し込み、これにより突部保合部(8)間に通過させて突部(7)を受口(3)内へ位置させる。ついでスリーブ(6)を回転させると外端の突部(7)が突部保合部(8)の裏面に對応する位置で突部(7)が圧接突部(9)のテバ状の内周に圧接し、スリーブ(6)が受口(3)に固定される。このように、スリーブ(6)の一端を押し込んで回転させるといつた簡単な作業で総手作業が完了する。接合完了後、スリーブ(6)の外端の突部(7)が受口(3)の突部保合部(8)と保合し、内面の突部凹が押口(2)の外面の突部(10)と保合することにより受口(3)と押口(2)との離脱阻止がなされる。なお、圧接突部(9)は必ずしも必要ではないが、圧接突部(9)が取ててあるとスリーブ(6)が圧接して受口(3)に固定されるため、スリーブ(6)が不注意に回転してスリーブ(6)の外面

(3)

特開昭55-54788 (2)

の突部(7)と受口(3)の突部保合部(8)との係合が外れることがない。

以上説明したように、本発明によると、受口内に一端を挿入したスリーブの該一端外圓に受口の突部保合部間を通過し得かつ該突部保合部と保合可能な突部を設け、スリーブの他端内面に押口の突部と保合可能な突部を設けたので、受口と押口との嵌合後、スリーブ一端を受口に挿入し、該スリーブを受口外に突出した部分を把持して回転させることにより接合作業が完了する。そのため、従来のように管全体を回転させたり、狭い間隙内にロツクリングを挿入したりする等の作業が不用で接合作業が簡単に行なえる。

4. 図面の簡単な説明

図面は本発明の一実施例を示し、第1図は総断面図、第2図は第1図のI-I線における横断面図、第3図は第1図のII-II線における部分横断面図である。

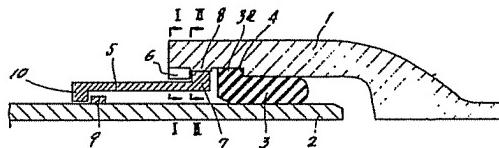
(1)…受口、(2)…押口、(3)…シール材、(6)…スリーブ、(8)…突部保合部、(7)…突部、(9)…圧接突部、

(4)

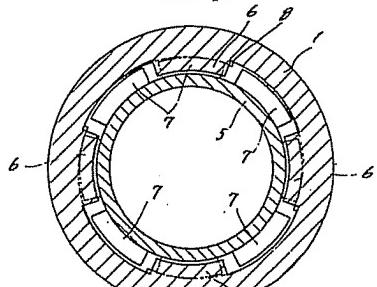
(6)…突部

代理人 森本義弘

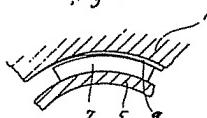
第1図



第2図



第3図



(5)